

教育センター通信

ほど 火床の火の心を紡ぐ

第4号（通算第10号）
平成26年7月29日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行

陸上練習（7月11日、第一中・嵐南小）



教育相談心掛けあれこれ

小中一貫教育推進課統括指導主事 唐沢 実

「学級での子どものことなんですが聞いてもらっていいですか…」

日々、様々な相談が教育委員会に届きます。特に私は、学校での特別支援の指導に関わること、子どもの発達や育ちに関わることに対応しています。私が保護者の方と行う面談や電話対応の際に心掛けていることを紹介します。

- 相手の話を遮らず、まずは聞く。相手の言葉を繰り返しながら聞く。
「そうなんです」「～～ということがあったんですね」
- 主訴〔一番言いたいこと〕を確認する。
「お母さんの心配は～～でいいですね」「困っていることは～～ですね」
- そのように感じられた事実を整理できるように質問する。
「そう考えられたのはいつからですか？」「ほかにもどんなことがありましたか？」
- 決めつけた言い方や言い訳をしない。
「そんなことはないですよ」「きっと担任の先生はこう考えてのことではないですか」という言い方はしない。
- 相手の辛さや困っていること、頑張っていることを受け止める。
「お子さんがそんな様子でしたらお母さんも辛いですね」「お母さんも頑張ってきたんですね」
- 方向性や改善策を提案する。＝応援できることを伝える。
「私の方から先生に伝えましょうか？」「本当にそんなことがあったのか学校に確認させてください」
- 次の可能性、改善する期待感を持っていただく。
「私に預らせてください」「もし不安が残るようでしたらいつでもまた連絡ください」

学校現場でも、様々な要求や要望がなされ、その対応に苦慮されているかと思います。第三者が入ることで客観的で冷静な対応が可能になることが多いです。教育委員会がその役割を果たせたらと思っています。

不登校児童生徒コーディネート力向上研修 ～7月8日～

この会は5月に実施した「不登校児童生徒アセスメント研修会」の
の実践・活用編とも言えるものです。講師は中越教育事務所学校支援
第2課SSWの長田美智留様！市内29校31名が受講しました。

まず、「カンファレンスシートの見立て方と具体的な支援計画の立
て方」をB小学校の事例で検討しました。中学校区ごとのグループで
協議し、「両親と祖父母の関係はどうか？」「専門機関を受診した際、
医師の見立てはどうだったのか？」等をB小のC先生に質問しました。
講師からは「家族像が具体的に分かる質問はよい」「受診したことで
安心してはいけない」「家族の年齢を入れること」「兄弟姉妹の育ちを
知ること」「WISCの結果（客観的データ）を活用すること」「医療
と保護者をつなぐのが教師の役割」等のアドバイスをいただきました。

その後、「各自のカンファレンスシートを使っての支援計画作り」を
行いました。それをグループ内で発表し合い、質問・意見等を交換し
ました。講師から「その子が学校でできていることを家族に伝える」
「マイナス（リスク）を取り除くと同時に、プラス（持ち味）を強化
すること」「母親が参加できる支援を考えていく」「本人の特性・意向
をその子から聞き取る」「第三者からの意見を聞く」等のアドバイスを
いただきました。参加者は「なるほど！」とうなずいていました。

最後に、保護者と面談する際に心がけたいこととして「バイステックの7原則」を紹介されました。
紙面の関係で割愛しますが、詳細は参加された方にお聞きください。以下、参加者の意見・感想です。



- 情報収集の不足部分を多数で見ることで補うことができることが実感できた。カンファレンスシートに書き出すことが情報共有と協力体制の第一歩なのだと分かった。
- 同じグループの方からたくさんのヒントをいただくことができました。今までの自分の対応を振り返り、明日からの関わりに生かしていきます。ありがとうございました。
- いろいろな考え方や視点を聞くことができてよかった。“子どもが真ん中”という長田先生のお話を肝に命じていきたい。学校の子どものたちのことを考えつつ、我が子のことも思いました。
- 自分の見方を広げることができた。（思い込みで話していることがあるので。）質問してもらったり意見をもらったりするのはいいなあと思いました。長田先生、ありがとうございました。

道徳教育指導者研修会を開催



7月18日、標記研修会を教育センター「ホール」で
開催しました。日本道徳教育学会会長の押谷由夫様から、
「これからの道徳教育への展望～道徳の特別教科化を踏
まえて～」と題して90分のご講演をいただきました。

冒頭に、道徳教育とは「人間として生きるとはどうい
うことが学び、身につけていくこと」である。もっと詳
しく説明すると、「かけがえのない私、どう生きる」と、
自分に問いかけ、追い求めること。つまり、自らの人生
を切り開いていくことなのです。と強調されました。

以下、講演内容の要旨を記します。

- 道徳教育の充実が未来を担う子どもたちの生きる姿勢や心構えを育むものであると改めて感じました。
- 「私たちの道徳」について具体的なお話、道徳の授業の実際について分かりやすく教えていただき、良かったです。

- ①道徳の特別教科化の流れをどのように押さえるか
- ②どのような道徳の教科化が求められるのか
- ③道徳教育推進教師を中心とした協力体制づくり
- ④道徳の授業が要となるよう工夫しよう
- ⑤「私たちの道徳」をどのように活用するか

※詳細は当日参加された方にお聞きください。

1学期「生徒指導訪問」を終えて

小中一貫教育推進課指導主事 高橋誠一郎

1学期が終わりました。「生徒指導訪問」において、諸々のご対応とご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。ここに生徒指導訪問で把握した各校のすばらしい実践と、ある校長先生との心嬉しくなるミニ会話ををご紹介します。

A小学校は、授業づくりに関わって「すべての授業において課題の明確化を図ろう」と取り組んでいましたが、なかなか具体策が見えずに困っていました。そこで、すべての授業において「課題」という表示パネルを教室に設置し、授業者が必ずそのパネルを黒板に貼ることで、子どもたちに「課題」を明確に把握させる取組を始めました。この場合、課題が授業の導入課題であるか、展開中の課題であるのか、その授業者によって使い方は様々でしたが、子どもが「今何を考えるのか」をフィードバックするための手法としては大変有効であると感じました。そして、その課題はさらに「学習問題」として「子どもが自ら考える」場面へと発展することが重要であるという授業者の意識の深化を確認することができました。

B中学校では、「学習の場としての学習環境」をハード面から整えることに取り組みました。前黒板やその両脇には、ほとんど一切の掲示物を貼りません。授業の板書内容に集中させるためです。また、各自の鞆その他部活動用具などの荷物も一切教室には置かず、廊下に起きます。以前は、廊下に荷物を置くと紛失の危険性があるとの理由で教室内に荷物をまとめましたが、廊下の方がむしろ荷物を管理しやすいという逆転の発想で共通理解していました。そしてその教室は、とても綺麗に整頓され、ゴミも落ちていない、さわやかな学習環境となっていました。

C小学校は、ある児童が不登校になった原因究明を関係機関とともに徹底解明することに取り組んでいました。その原因をあえて学校外に求めることをせず、「学校における生活環境に問題があるとしたらどこなのか」という視点で、全校体制でその究明に取り組んでいることがすばらしいことであり、学校の姿勢として大変重要であると感じました。なぜならば、たとえ不登校の理由が学校環境外にあったとしても、学校の環境を改善することを第一義とする姿勢によって、当該児童が改めて「学校に行きたい」という気持ちをもつ可能性があるからです。まさに、「学校がその子を救うのだ。」という毅然とした姿勢が感じられ、とても頼もしく感じました。

D中学校では「問題行動に関わる職員の情報共有が遅い…」という悩みを抱えていました。これについて、管理職はこれまでの報告連絡体制を抜本的に改善しました。事案を認知した場合には、事案認知者と担任、学年主任、生徒指導主事、管理職がすぐに一同に会するカンファレンスを実施するということです。一般的報告の流れは担任から学年主任、そして生徒指導主事から教頭へという形ですが、この連絡経路を撤廃して、すぐに管理職も情報を把握するシステムを構築しているのです。これは情報共有の透明度を増し、機動力を高める上で大変大きな効果を上げていると感じました。

E小学校では、発達障がい傾向のある児童が学級内で落ち着かず、なかなか行動改善が進まないことについて、苦慮していました。何度か保護者と面談を繰り返す中で、保護者自身が家庭での当該児童の行動に相当の悩みを抱えていて、家で子に辛くあたる場面ばかりであることが分かってきました。保護者が学校に本当の気持ちを伝えてくれたことで判明したことです。ここから保護者の気持ちの安定感が生まれ、家庭で子どもに対する時の心のゆとりも生まれ、逆に褒める場面も出てきました。ここから好循環が生まれ、当該児童は学級においても笑顔さえ見られるようになりました。

最後に、ある校長先生とお話をしているときにこんな会話になったことがあるので紹介します。

校長先生 「新潟県は学校を休んだ生徒に対して『1（ワン）2（ツウ）3（スリー）運動』を推進しているけど、休んだ子がいればまず電話、2日続いたら詳しくお話を聞いて、3日続けば家庭訪問なんて当たり前ですよ。」

高橋 「私はどんな教員が『いい教員』かと聞かれたら、『気がもめる』教員だと言います。子どもが休んだら、その理由が気になって気になって仕方ない。なんか悩みがあるなら早く聞きたい。とにかく心配になる。そんな気持ちになる教員が『いい教員』だと思うんです。3で家庭訪問ではなく、1で訪問をするような教員です。心配する教員です。指導技術よりも、気持ちなんですよね。」

校長先生 「まさにうちの先生方はそうですね。指導力もさることながら、子ども一人一人を大事している。家庭訪問もひっきりなしに行ってくれている。保護者の方々からも大きな信頼を得ていると思いますよ。自慢の職員集団です。」

高橋 「生徒指導の最良にして最強の手段は『心配だから、相談活動』ですね。」

各学校区における小中一貫教育の紹介 ～その3～

第一中学校区



平成26年4月に小中一体校となった嵐南小と第一中では小中連携による「あいさつ運動」を推進しています。

中学生が、生徒会本部役員、部活動、委員会、学級等の単位で、玄関前に立って登校してくる小学生、中学生にあいさつをします。始まった頃は、中学生に声をかけられ戸惑う小学生の姿も見られたそうですが、日が経つにつれ笑顔であいさつを返す小学生が増えてきたとのこと。取材に伺った8日は、4人の保護者も参加されていました。毎日の地道なあいさつ運動が小・中学生の人間関係作りに好影響を与えると確信しました。

7月11日、嵐南小6年生は第一中陸上部から2回目の指導を受けました。7月29日に実施予定の「小学校親善陸上大会」に向けた練習の一環です。雨天のため、今回も屋内での練習になりましたが、陸上部の先輩から、短距離走のスタートの仕方、スタート後の姿勢、腕の振り方・足の運び方など走り方の基本をみっちり教えてもらいました。陸上部の中学生から実際に手本を見せてもらい、自分の走りにいかしていました。別の場所ではハードルの越え方を教えてもらっていました。教える中学生の一生懸命さが伝わってきました。

【平成26年度の主な予定（8月以降）】

- | | | | |
|------------------|-----------------|-----------------|-----------|
| ・ペア職員による研究授業の検討会 | 8月1日（金） | ・部活動体験 | 10月上旬 |
| ・小中合同避難訓練 | 9月上旬 | ・作品展と合唱コンクール | |
| ・第一中体育祭 | 9月6日（土）※6年生希望参加 | | 10月18日（土） |
| ・嵐南小6年生が第一中に体験入学 | 9月19日（金） | ・いじめ見逃しゼロスクール集会 | |
| ・ノーマディアウィーク 第2回： | 9月25日（木） | | 11月7日（金） |
| | 第3回：11月11日（火） | ・新1年生歓迎会 | 3月上旬 |
| | 第4回：1月29日（木） | | |

教育の窓 ～高校の「総合的な学習」の現状を紹介します～

「大昔のことばかり読ませられても……？」という声が聞こえてきたので今回は最近のことを！7月4日、母校のS高校で「社会人講話」を行いました。S高校では「総合的な学習」の一環として広い視野に立った進路学習を実施しています。毎年7月に、社会で活躍している（活躍していた）卒業生から、その専門分野や経験等について講話する「社会人講話」を平成16年度から実施していて、今年で11回目となりました。その講師に私が選ばれたのです。突然の手紙で、「何で私が？」と戸惑いましたが、懐かしく思い出多い母校からの依頼なので、引き受けました。

私が受け持つ「教育」の受講者は「将来教員になりたいから」「教育現場での経験を具体的に聞きたいから」等の理由で希望した高1・高2の70名。中に「講師が小学校の時の校長先生だったから」という選定理由もありました。教員人生の最後の8年間は、18年ぶりの地元三条市で小学校3校の校長を務めました。その時の子どもがもう高校生だなんて、月日の経つのは早いですね。

当日、「理学」「工学」「医療保健」「生物農学」「人文科学」「社会科学」「教育」「芸術」の各分野から選出された11名の講師が、体育館で全校生徒に紹介されました。（以下次号に続く）（M）

【連絡とお願い】

☆7月25日から子どもたちが楽しみにしている夏季休業が始まりました。定例校長会議でも説明しましたが、以下の7点について引き続き、指導の徹底をお願いいたします。

- ①特に配慮を要する児童・生徒への指導・支援 ②交通事故防止 ③熱中症防止 ④水難事故防止
⑤不審者対応 ⑥非行・ネット依存、犯罪の防止 ⑦事故発生時の校内連絡体制の整備・再確認

☆“さわやかに 暑さもやわらぐ ゆとりとマナー”（夏の交通事故防止運動実施中 7/22～31）